



中央教育研究所 教育シンポジウムin東京2022(第26回)

# 深い学びへのアプローチ —研究紹介と講演へのコメント—

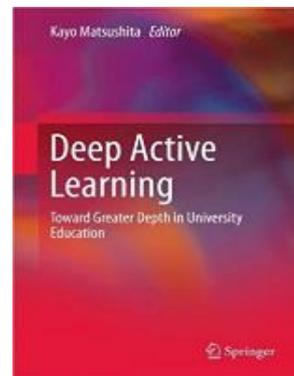
京都大学高等教育研究開発推進センター

松下 佳代

[matsushita.kayo.7r@kyoto-u.ac.jp](mailto:matsushita.kayo.7r@kyoto-u.ac.jp)

# 深い学びへのアプローチ

- 「ディープ・アクティブラーニング」の提案
  - 「主体的・対話的で深い学び」以前
  - 「アクティブ・ラーニング」(大学:2012中教審答申～)への問題意識
    - 「活動あって学びなし」
  
- 「対話型論証」の提案
  - ディープ・アクティブラーニングを具体化する方法として



# 日本の教育政策との関係

## 目 標

## 教 授 ・ 学 習

2015年頃まで

- 「学力の3要素」
  - 知識・技能
  - 思考力・判断力・表現力等
  - 主体的に学習に取り組む態度

- 「アクティブ・ラーニング」  
 =「課題の発見・解決に向けた  
 主体的・協働的な学び」(2014.11諮問)

「ディープ・アクティブ  
ラーニングの提案」



- 「資質・能力の3つの柱」
  - 知識・技能
  - 思考力・判断力・表現力等
  - 学びに向かう力・人間性等

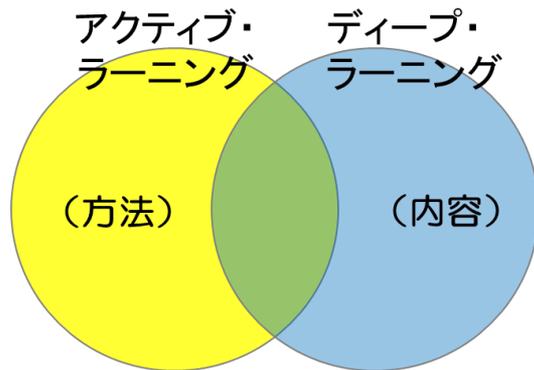
- 「主体的・対話的で深い学び」

(新学習指導要領)  
2016年頃

# 「ディープ・アクティブラーニング」の考え方

- アクティブであると同時にディープでもあること

- 外的活動だけでなく、内的活動でもアクティブであること



# 「対話型論証」の考え方

- 予測困難な時代、どんどん多く・高くなる学校への要求
- 「学校で身につけてほしいこと」を一つに絞るとすれば…

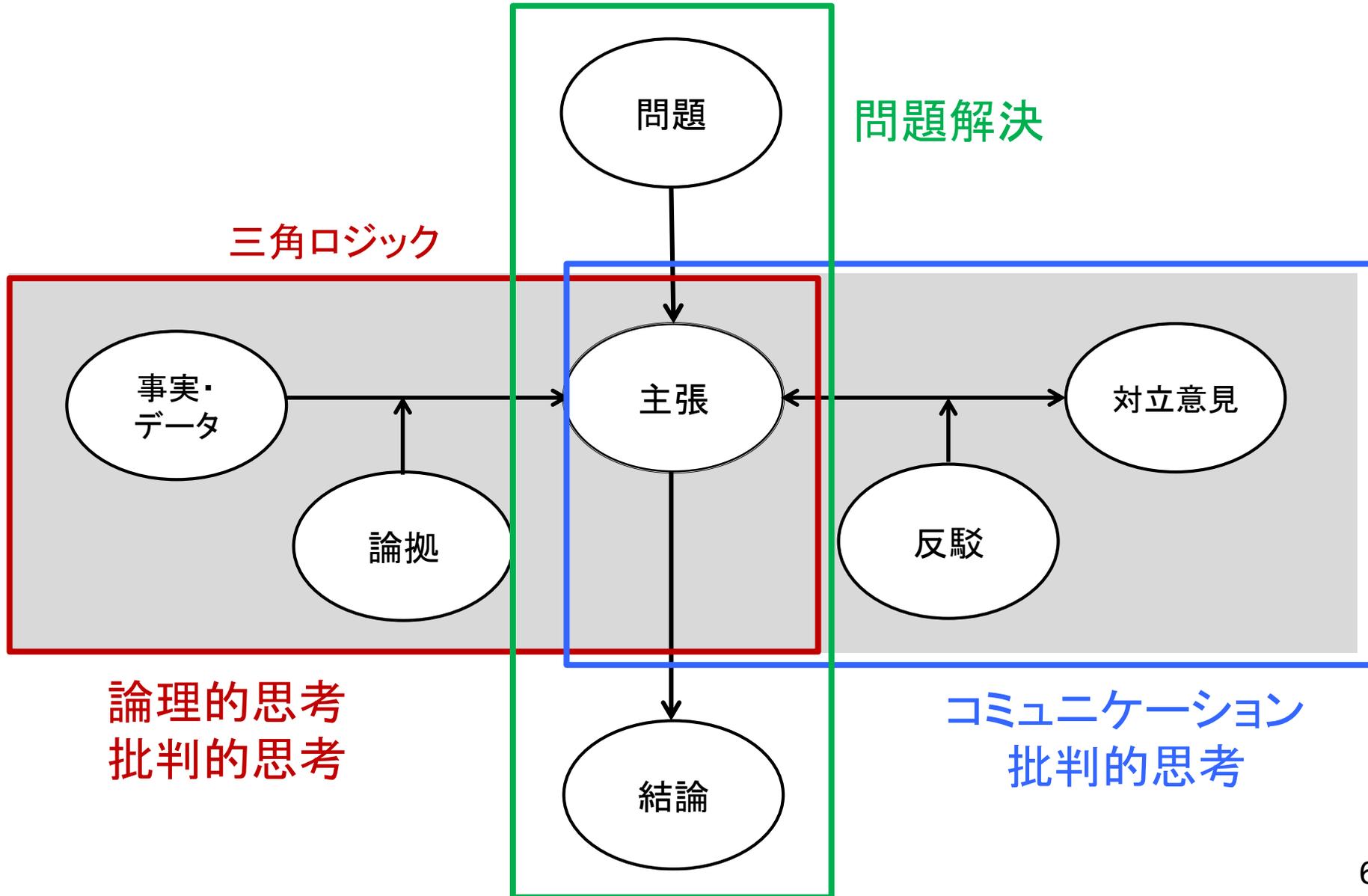


## 「対話型論証」の力

＝「ある問題に対して、他者と対話しながら、根拠をもって主張を組み立て、結論を導く活動」

- 「問題解決」「論理的思考」「批判的思考」「コミュニケーション」などが含まれている。
- ただし、それをばらばらの要素ではなく、対話型論証という一まとまりの活動として示したのがポイント。

# 対話型論証モデル



# 「対話型論証」の実践

---

- いくつかの中学校・高校、大学で実践を展開

- 中・高

- 各教科、道徳、総合/教科等横断学習
- 習得・活用・探究

- 大学

- 初年次教育／専門教育

- 生徒・学生の声

- 今回の探究全体を通して、論証モデルをうまく使えば、かなり自分の伝えたいことが伝わりやすいことがわかった。初めはデータ探しなどがなかなか大変だったが、うまく結論を出すことができた。今後も活用したい。(高校1年)
- 「今まで文章を書くときは、とりあえず書きたいことを書く、読み手のことを考えていない文章であったと思います。論証モデルを学んで、読み手のことを考えた、伝わりやすい文章構成が分かってからは、文の組み立て、文章作りが、とても書きやすくなりました。」(大学2年)



# コメント

# 3講演の位置づけ

---

- 共通テーマ:「深い学び」

- 3講演

- 石田: 新教育課程の目指す資質・能力と「深い学び」  
～中央教育審議会答申、学習指導要領、学習指導要領解説を手がかりに～

政策

- 市川: 「深い学び」の背景と学校教育での展開

研究

実践

- 玉野: 習得～探究における「深い学び」に向けたカリキュラム編成

実践

# 論点1:さまざまな「学び」の関係

- 「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学び」「協働的な学び」の関係は？
    - 後者は、ICT活用による学習者の多様性への対応の中で出てきた考え方
      - そもそも、学びの「最適化」は可能か？
      - その中で、「主体的な学び」や「深い学び」はどう位置づくるのか？
- ↓
- OKJ:「個別最適化」はしない？  
学習者の多様性、格差にはどう対応しているか？

# 論点2:「深い学び」の捉え方

## ● 「深い学び」は、認知的な深さか？

### ● 文科省の説明

- 「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点」(石田, S22)

### ● OKJ

- 主に、認知心理学の情報処理モデルにそったもの(市川, S6)
  - (例) 素朴概念



- 「資質・能力の3つの柱」には「学びに向かう力、人間性等」のような非認知能力も含まれているが、それと「深い学び」の関係は？

cf. Deep/Deeper Learningでは非認知能力も重視(フランら, 2020)

# 論点3:「習得」「活用」「探究」の関係

## ● 「習得～探究」をどうつないでいるか？

- 習得、活用:OKJ
  - 習得:教師の説明、理解深化課題
  - 活用:転移課題
- 探究(教科)
  - Researcher-Like Activity (RLA)
  - 一単元を「習得」と「探究」で構成(玉野, S14)
- 探究(総合)
  - ThinkQuest



- OKJは習得・活用まで？
- 探究における「課題の設定」をどのように学ぶのか？

# 論点4: 扱われる教育・学習の単位は？

- 「資質・能力」の長期的な育成と「深い学び」の関係は？
    - OKJ: 主に1教科の1時間・1単元の教育・学習を扱う(調布大塚小)
    - 1年間の教科等横断カリキュラム(奥沢小)
- ↓
- 単元をまたぐ「深い学び」へのアプローチは？
    - (例) 土地所有の歴史的変遷(市川, S7)
  - 学年・教科を超えた「深い学び」へのアプローチは？
    - (例) ラーニング・プログレッションズ: 原子・分子の概念の変化
    - (例) 福岡教育大学附属小倉中学校

# 【参考】

## ● 教科等横断学習のデザイン

### ● 横断学習テーマ「地方創生」 (小倉中・2年)

### ● 構成教科等

- 社会・道徳科・総合的な学習の時間・国語・美術・英語

